

癒やしの旅

有福温泉郷

(島根県江津市)

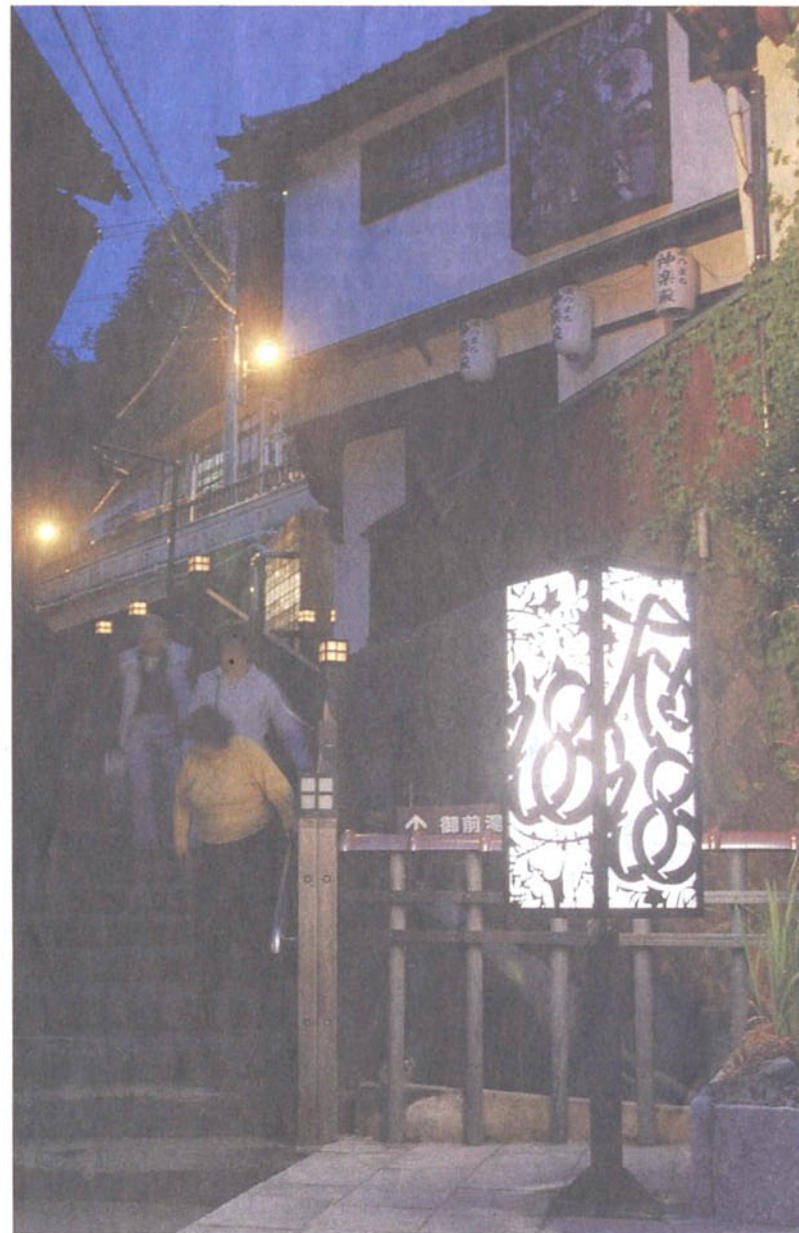
「福ありの里」新たな顔

幾つもの坂や石段に沿って、身を寄せ合うように並ぶ家や商店、旅館。川のせせらぎと鳥の声が聞こえる鄙びた空間に、古き良き時代の面影が漂う。1400年近く前、インドからやって来た修行僧・法道によって見いだされたという温泉が湧き、「福ありの里」と呼ばれる島根県江津市の有福温泉町を訪ねた。

「ゆっくりと、のどかな時間を楽しめる場所。関西、関東からの若いお客さんも増えてきました」と、旅館組合長の伊田光雄さん(52)。営む三階旅館は1869年(明治2年)の創業で、もとは「石見の殿様」の別邸だったという。伊田さん自ら約20分離れた浜田漁港で魚介類を仕入れ、調理しても

あり、江戸時代からの老舗も。3軒ある外湯(日帰り入浴場)の一つ、薬師堂前の「御前湯」はレンガ造りの外観で、浴槽中央の岩から源泉が湧く。いずれも心身を癒やし、美肌効果のある高温のアルカリ性単純泉だ。毎週土曜の夜に石見神楽が上演される神楽殿、懐かしい雰囲気がある土産物店や名物・善太郎餅を売る店など、旅情を誘うスポットも点在する。

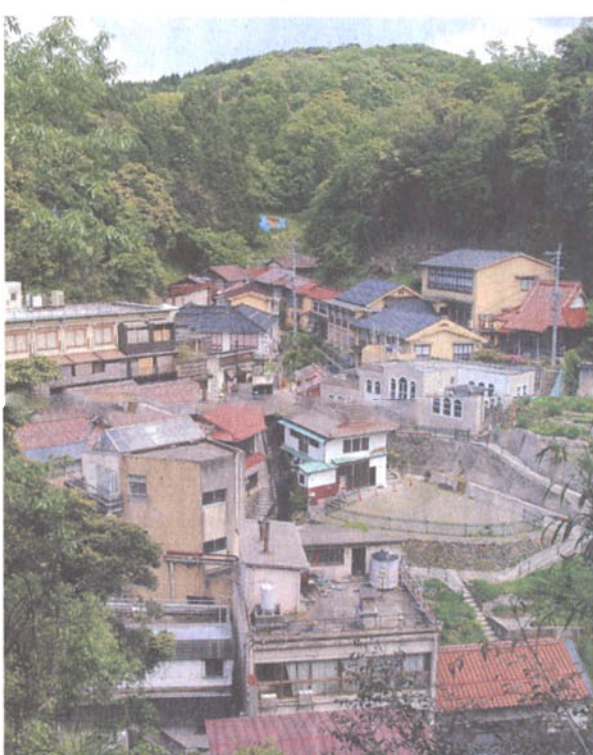
一方、昔ながらの風情に近年、新たな表情も加わった。1日一組限定の宿泊で貸し切り露天風呂を備え、竹炭焙煎のコーヒーやスイーツも楽しめる「有福カフェ」。活性化を目指して設立された企業「有福振興」が事業第一弾として2010年に開いた。店長の藤井有紀子さん(44)は「宿の若い主人たちの新しい発想。少人数で好み



「日暮れ時の温泉街。灯籠に「有福」の文字が浮かび上がる。新たな魅力を添える「聖地」のプレート

幾つもの坂や石段に沿って、身を寄せ合うように並ぶ家や商店、旅館。川のせせらぎと鳥の声が聞こえる鄙びた空間に、古き良き時代の面影が漂う。1400年近く前、インドからやって来た修行僧・法道によって見いだされたという温泉が湧き、「福ありの里」と呼ばれる島根県江津市の有福温泉町を訪ねた。

「ゆっくりと、のどかな時間を楽しめる場所。関西、関東からの若いお客さんも増えてきました」と、旅館組合長の伊田光雄さん(52)。営む三階旅館は1869年(明治2年)の創業で、もとは「石見の殿様」の別邸だったという。伊田さん自ら約20分離れた浜田漁港で魚介類を仕入れ、調理しても



坂道と石段沿いに旅館や外湯が並ぶ温泉街

にに応じた挙式と披露宴ができる。「有福婚」も人気です」と語る。晩年、石見国の国司として江津に赴いた歌人・柿本人麻呂が妻・よさみ姫と出会った古事から、温泉郷はNPO法人地域活性化支援

「湯治場としての長い歴史と泉質の良さ、心を癒やす非日常的な空間。それを守りながら、地元の様々な資源をより輝かせるための取り組みも続けています。「有福」の文字や恵比須さまの顔をあしらった灯籠の新設、地熱を利用した発電の可能性調査もその一部。将来を見据え、魅力ある温泉郷であり続けよう」と工夫、チャレンジする息吹を感じながら、里の風情を満喫してもらえれば幸いです」



ガイド 有福温泉へは山陽自動車道・広島インターチェンジ(IC、広島市)から中国自動車道、浜田自動車道を経て、山陰自動車道・浜田東ICから県道で約20分。広島ICからの所要時間は約1時間30分。御前湯、さつき湯、やよい湯の3外湯は午前7時～午後9時半の営業で、大人400円、子供200円。年中無休の有福カフェも、午前9時～午後9時の営業(火曜のみ午後7時まで)。神楽殿での公演は午後8時半から約1時間で、観覧料は小学生以上1000円。問い合わせは、有福振興が運営する観光案内所(0855・56・2277、水曜休み)へ。

魅力づくりチャレンジ

有福温泉町まちづくり協議会長 益子原 温さん(65)



「湯治場としての長い歴史と泉質の良さ、心を癒やす非日常的な空間。それを守りながら、地元の様々な資源をより輝かせるための取り組みも続けています。「有福」の文字や恵比須さまの顔をあしらった灯籠の新設、地熱を利用した発電の可能性調査もその一部。将来を見据え、魅力ある温泉郷であり続けよう」と工夫、チャレンジする息吹を感じながら、里の風情を満喫してもらえれば幸いです」